

経済同友会 × ビジネスメディア PIVOT コラボ  
未来志向の政策トーク番組

## 「日本再興ラストチャンス」 “地域共創・地方創生”



日本再興の起爆剤として期待が大きい地方創生。他方で地域特有の課題があり、全国各地で試行錯誤が続いている。インバウンドが急速に拡大する中、地方創生の鍵を探るべく「ビジネスで地域経済を変える方法」「地方をどう経営すべきか」をテーマに、山下良則地域共創委員会委員長と、地域政党「再生の道」を立ち上げた話題の石丸伸二氏が議論した。

YouTubeで  
配信中



日本再興ラストチャンス 経済同友会とビジネスメディアPIVOTがコラボレーションし、YouTubeで配信する未来志向の政策トーク番組。「失ってしまった」30年を経て、これからどのように日本を、経済を再興すべきか。経済学者と経営者との対話を通じて、解決に向けたアクションプランを提案します。

〈出演者〉

**山下 良則** 経済同友会 副代表幹事／地域共創委員会 委員長(リコー 取締役会長) ●兵庫県出身。1980年リコー入社。人を愛する経営哲学の下、地方創生DXを推進。経済同友会では地方創生を担当し、現場主義を掲げて地方を精力的に視察。

**石丸 伸二** 広島県出身。2006年京都大学卒業後、三菱UFJ銀行入行。20年8月より安芸高田市市長。25年1月地域政党「再生の道」を立ち上げた。

**中室 牧子** 慶應義塾大学 教授／教育経済学者 ●奈良県出身。慶應義塾大学卒業後、日本銀行入行。米国コロンビア大学にて修士号取得。日銀退職後、世界銀行欧州・中央アジア地域総局で教育セクターの分析に携わる。

〈進行〉 野嶋 紗己子 PIVOT MC

### 共助資本主義の実現委員会

## 『「ソーシャルセクター連携」のすすめ～共助経営のためのガイダンス～』を公表

共助資本主義の実現委員会は1月15日、インパクトスタートアップ協会、新公益連盟と連携し、『「ソーシャルセクター連携」のすすめ～共助経営のためのガイダンス～』を公表した。本ガイダンスでは、共助資本主義を企業経営において実践する「共助経営」についての考え方や、企業がソー

シャルセクターと連携し社会課題解決に取り組む上で重要なポイントをまとめている。また、インタビュー調査を実施し、計10社の企業とNPOとの連携における取り組み事例を紹介している。

〈主な内容〉

#### 1. 共助経営における経営者の役割

- 1.1 共助経営とは何か
- 1.2 経営者の役割
- 1.3 NPO育成の観点と共助経営者
- 1.4 企業の現状と課題

#### 2. ソーシャルセクターとの連携による持続的な企業価値向上のためのガイダンス

- 2.1 なぜ共助経営に取り組むのか (WHY)

- 2.2 何に取り組むのかー社会課題の特定 (WHAT) ー

- 2.3 どのように取り組むのかー実践の段階的な整理 (HOW) ー
- 2.4 どのように取り組むのかー組織体制の整備 (HOW) ー
- 2.5 誰と取り組むのかー連携するNPO選定のポイント (WHO) ー
- 2.6 企業がNPOに提供可能なリソース
- 2.7 どこで取り組むのか (WHERE)

#### 3. 企業事例からの示唆

- 3.1 連携のバリエーションと取り組み事例 (WHO)

#### 「1.1 共助経営とは何か」より

企業は事業などを通して様々な形で社会課題解決の実現に取り組んでいるが、これまでは、将来にわたる社会基盤の持続性の担保と継続的な企業価値向上は、別に語られることが多かった。共助経営とは、企業の“経済的価値”と“社会的価値”の創造活動を両立し、持続的な企業価値向上を実現する経営のあり方である。目指す価値創造は、自治体・行政、ソーシャルセクター、大学という強みの異なるセクターと協働するコレクティブインパクトにより、大規模な社会変革を起こすことである。

したがって、共助経営は、CSR (企業の社会的責任)、CSV (共通価値の創造：経済価値と社会価値の創造を同時に追求) やESG、SGG (持続的な開発目標) などに代表されるコンセ

プトや評価軸とは異なる。単に“経済的価値”と“社会的価値”の創造活動を両立するにとどまらず、コレクティブインパクトを生み、社会変革を起こし、これを企業価値向上に繋げることを目指す。この意味で、共助経営はひとつの競争戦略に今後なっていくであろう。

企業が掲げる「パーパス」は、企業の生み出す“経済的価値”、“社会的価値”と経営戦略が包含された、企業の社会的な存在意義を示しているのではないか。つまり、共助経営により企業が社会課題に取り組むことは、本業の事業活動同様に企業パーパスの実現に向けた活動そのものであり、その活動を経営戦略に組み込み、インパクトを可視化していくことが重要である。

全文はコチラ

